

令和7年度前期 学校評価の結果からの考察

安心

重点項目① 確かな学力の育成 ~「学ぶ力」を育て、主体的に学ぶ子どもに~

		評価項目	R7 前期肯定的評価(%)	R6 後期肯定的評価(%)
児童		授業では、「わかる できる」ように、自分から進んで考えている。	↑ 95.1	92.2
		わからないことや、難しい課題に対して、粘り強く取り組んでいる。	↑ 93.1	89.6
	○	学校で安心して、学習したり生活したりしている。	97.1	
保護者		学校は、「わかる」「できる」授業をめざし、お子さんが主体的に考えがもてるように授業の工夫をしている。	← 91.5	91.3
		お子さんは、課題に対して自ら考え、粘り強く取り組んで解決しようとしている。	← 83.0	80.9
		お子さんは、学校で安心して学習したり生活したりしている。	← 89.6	
教職員		付けたい資質・能力「課題解決能力」の育成を目指し、学習者主体の授業をしている。	★ 66.7	25.7
		学力向上ロードマップにおける共通実践を行ったり、帯タイムを有効に活用したりして、基礎・基本の確実な定着を図っている。	↑ 75.0	50.0
		Next GIGA における ICT 機器や1人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて取り組んでいる。	★ 58.3	25.0

成果

○児童は、全ての項目において肯定的評価が高かった。特に「学校で安心して、学習したり生活したりしている。」においては、学校研究と生徒指導を両輪とした自己存在感を高める取組の成果といえる。授業の中では、だれとでも関わり合うことができる環境、安心して自分の考えを発表できる雰囲気を意識して教師が声かけをした成果と伺える。

○教職員の全ての項目において肯定的評価が高かった。学校研究では、「主体的に学ぶ和倉っ子の育成～関わり合いの質を高める授業から深い学びへ～」を研究主題に掲げ取り組んできた。児童に委ねる学びの時間「わくわくタイム」(個別・協働の学びの時間)の質を高めるために、「レッツトライ集会」で学び方を紹介したり、「わく learn ステップ」を教室掲示して可視化したりして、児童が主体的に学びに向かう手立てを工夫することができた。

課題

△「わかった できた」から「もっと知りたい」「もっと上手になりたい」という前向きな気持ちを高めていくように声かけをしていく。学校の取組を学級通信や学校だより等で家庭に紹介し、家庭・地域の方の場でも活躍できる場を増やし、さらに自己肯定感を高めていくように取組を工夫していく。

重点項目② 豊かな心の育成 ~「ともに生きる力」を育て、思いやりある子どもに~

		評価項目	R7 前期肯定的評価(%)	R6 後期肯定的評価(%)
児童	△	自分のよいところを見つけて知っている。	★ 83.3	76.5
	△	自分のめあてをもって、前向きに取り組んでいる。	92.2	△
		友達に対して、思いやりのある言葉を使ったり、行動をしたりしている。	↑ 94.1	88.7
保護者		学校は、子どものよいところを見つけて、認めたり褒めたりするようにしている。	↓ 89.6	93.0
	△	お子さんは、自分のめあてを持って前向きに取り組んでいる。	77.4	△
		お子さんは、友達に対して思いやりのある言葉を使ったり、行動したりしている。	↑ 88.7	80.9
		学校は、いじめの未然防止や早期発見と早期対応を行っている。(生徒指導便り、なかよしアンケート、担任やスクールカウンセラーとの面談)	↑ 94.3	84.3
教職員		自他を尊重し合う人権教育、道徳教育、特別活動、キャリア教育の充実に取り組んでいる。	↑ 75.0	58.3
	○	生徒指導の4つの視点をいかし、いじめに対する感度の向上、「報・連・相」を徹底した組織的な対応に取り組んでいる。	91.7	75.0
	○	不登校・問題行動等の未然防止に向けて、「チーム支援」による連携と情報共有をしている。	↑ 91.7	83.3
		一人一人のよさを認め合う個に応じた指導と支援体制に取り組んでいる。	83.3	△

成果

- 「自分のよいところを見つけて知っている」の項目において、昨年度より肯定的評価が大幅に上回った。「和倉っ子いいところ見つけ探偵」や「掃除名人」等、一人一人のよさを認める取組をした成果といえる。
- 昨年度は課題として挙げられた「思いやりのある言葉を使ったり、行動をしたりしている。」の項目において、児童・保護者ともに肯定的評価が昨年度より5%上回った。今後も、学校・家庭で連携しながら、言葉の使い方について指導をしていく。
- いじめに対する感度の向上、不登校・問題行動等の未然防止に向けての情報共有の取組を徹底できた。不登校傾向と思われる児童が数名いるが、保護者と児童の様子について連絡を密にしながら効果的な支援を行っていく。

課題

- △保護者の「お子さんは、自分のめあてを持って前向きに取り組んでいる。」の項目を今年度新たに設けたが、「判断できない」が 7.5% だった。学校行事等のねらいを発信し、めあてをもって少しずつ「前進」できるように、家庭でも取り組んでいけるようにする。

重点項目③ 心身ともに健康な児童の育成 ~「生きる力」を支える、健やかな心と体を育む~

		評価項目	R7 前期肯定的評価(%)	R6 後期肯定的評価(%)
児童	△	早寝・早起き・朝ごはん、歯みがきなどに心がけ、規則正しい生活習慣を身に付けるようにしている。	↑ 89.2	85.2
	○	命を守る避難訓練に、よりよい行動について考えながら、真剣に取り組んでいる。	← 99.0	99.1
		体づくりのために、体育の時間や休み時間に、進んで運動している。	↑ 93.1	86.1
保護者		学校は、早寝・早起き・朝ご飯などの規則正しい生活習慣や歯みがきが身につくように、働きかけている。(健康ブック、保健指導)	↑ 94.3	92.2
		学校は、安全教育(防犯・防災・避難訓練・交通安全教室等)を適切に行っている。	↑ 97.2	95.7
		児童の体力向上に向けて、全校で積極的に取り組んでいる。(スポーツテスト、体育祭等)	↑ 93.4	89.6
教職員	○	安全教育(防犯・防災・避難訓練・交通安全教室等)に積極的に取り組んでいる。	↑ 91.0	75.0
		基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭と連携した取組を進めている。	★ 66.7	33.3
	△	体力向上を目指して、体力アップ!校!プランやスポーツチャレいしかわの取組に積極的に取り組んでいる。	↑ 50.0	33.3

成果

- 休み時間には、体育館や運動場で進んで体を動かして遊ぶ児童が多い。縦割り班活動や、高学年が低学年のお世話等を通して、異学年の交流ができている。
- 1学期の避難訓練は、「火災」「地震・津波」「引き渡し」「不審者対応」「シェイクアウト」を実施した。どの避難訓練についても、事前プレゼンを作成し、目的意識をもたせて取り組んだ後、振り返りを行った。児童はめあてをもち真剣に取り組み、より効果的な訓練ができたと考えられる。実際に、地震が起きた際には、放送の指示をよく聞き、シェイクアウトを行うことができた。2学期は「休み時間の火災」「地震と原発の複合」について実施し、危機意識を高める。

課題

- △「早寝・早起き・朝ごはん、歯みがきなどに心がけ、規則正しい生活習慣を身に付けるようにしている。」の項目において、保護者の肯定的評価が児童を上回った。保護者は、規則正しい生活習慣の定着に向けて継続的な働きかけをしていることが伺える。今後は、児童自らがセルフコントロールし、主体的に取り組むことで意識を高めていくように家庭と連携していく。
- △R6年度の新体力テストの総合評価で県平均を下回る項目が多かった。被災後から運動する機会が減り、運動不足や運動能力が低下していることが伺える。体育の導入時に補強運動を取り入れ、全学年での体力アップをねらっていく。

前進

重点項目④ 家庭・地域とともに復興応援大作戦！ =「和倉大好き！～がんばろう和倉！～」

		評価項目	R7 前期肯定的評価(%)	R6 後期肯定的評価(%)
児童	○	ふるさと七尾・和倉のすてきな所を見つけ、大切にしようと思っている。	↑ 96.1	95.7
		友だちと協働して、学習したり生活したりしている。	↑ 95.1	93.0
保護者	○	学校は、ふるさと七尾・和倉を大切にする心を育てている。(生活科:町探検、総合的な学習の時間:田んぼ作り、ふるさと七尾 SDGs、地域の方のゲストティーチャーなど)	↑ 99.1	96.5
	△	お子さんは、友達と協働して、学習したり生活したりしている。	← 85.8	85.2
	○	学校は、経営方針や学校の様子などをよく伝えている。(学校だより、学年だより、メール配信、学校説明会)	↑ 99.1	95.7
教職員		ふるさと七尾・和倉のリソース(自然、人、歴史・文化遺産等)を有効に活用して、和倉復興に向けて取り組んでいる。	↑ 66.7	58.3
		保護者や地域の意見に耳を傾け、学校評価からの検証をいかして教育活動に取り組んでいる。	↑ 75.0	58.3

成果

- 「ふるさと七尾・和倉のすてきな所を見つけ、大切にしようと思っている」では、総合的な学習の時間に「未来へつなごう！和倉わくわく復興大作戦！」をテーマに掲げ、3年生以上は学年テーマを設定して復興に向けた探究学習を進めてきた。また、生活科の学習で1・2年生は学校周辺を歩き、地域の人と挨拶したり、自然あそびをしたりして和倉の町について調べた。3・6年生はゲストティーチャーを学校に招き、和倉復興に向けた計画や願いについてお話を聞き、地域の方々の思いを知ることができた。
- 和倉っ子スポーツフェスティバル(運動会)では、全校児童がよさこいを踊ったり、太鼓クラブの児童が「和倉いで湯太鼓」を披露したりした。10月には「能登よさこい祭り」に全校児童が参加する予定である。この取組は、ふるさとを愛する心を育む一助となることをねらっている。
- 学校の活動の様子を学校だよりや学級だより等で配信した。学校 HP にもアップし、取組を紹介することができた。

課題

- △地域の方々の学校教育に対する協力のおかげで、児童は有意義なお話を聞くことができた。今後も継続して人材活用ができるように、学校から学習に協力していただく依頼をし、学習の機会をさらに広げていけるようにする。

協働

重点項目⑤ 「チーム支援」による全教職員での協働

～「安心・前進・協働」を土台とした、チームによる学校づくり～

	評 価 項 目	R7 前期肯定的評価 (%)	R6 後期肯定的評価 (%)
教職員	「報・連・相」を徹底し、一人で抱え込まず、組織で対応する体制ができている。	↑ 83.3	58.3
	△ 各教職員に適した校内研修（若プロ、GIGA 校内研修、OJT等）が充実している。	↑ 41.7	25.0
	△ 最終退校時刻(19:00)を遵守し、定時退校(毎週水曜日 18:00)の働き方の改善の工夫を実践している。	← 41.7	41.7

成果

○学校行事のねらいを明確にし、全職員で児童が主役となるように学校経営を行った。課題があった場合は、「報・連・相」を徹底したこと、課題について早期発見・早期対応を心がけて迅速に対応したこと、組織的に対応することができた。

課題

△教職員の各ステージに合わせて研修に参加し、レベルアップを目指して取り組むようにする。また、校内に研修還元することで、全体の意識を高めていけるようにする。